

小中学生の国際交流事業について

1 主旨

令和2年度以降、新型コロナウイルス感染症の拡大により一部を除き多くの国際交流事業が延期及び中止等を余儀なくされた。また、令和3年度以降も不安定な国際情勢や渡航費の高騰等の懸案事項が引き続き発生している状況である。

令和5年度に向けて、令和2年度以降に実施してきた国内における国際交流事業の規模拡大を図るとともに、これまで中止を余儀なくされてきた国外における国際交流事業を児童・生徒の安心・安全に配慮した上で再開し、文化や伝統等に触れる機会を設けることで国際的視野を広め、グローバル人材を育成する。

2 令和元年度以前に実施していた事業 ※資料1の上段を参照

(1) 国内における主な事業

- ①タッチ・ザ・ワールド
- ②姉妹都市からの中学生の受入れ
バンバリー市（オーストラリア）・ウィニペグ市（カナダ）
- ③学校独自の国際交流活動

(2) 国外における事業

- ①姉妹都市への小・中学生の派遣
バンバリー市・ウィニペグ市・ウィーン市（オーストリア）
- ②教育研究を目的とした小・中学生、教員の派遣
フィンランド（ビヒティ市）

3 令和2・3・4年度に実施した事業 ※資料1の中段を参照

(1) 国内における主な事業

- ①テンプル大学国内留学プログラム助成事業
- ②英語体験出張教室
- ③オンライン海外交流プログラム
- ④教育総合センターにおける国際理解教育事業 ※令和4年10月以降に実施予定
- ⑤学校独自の国際交流活動

(2) 国外における事業

新型コロナウイルス感染症の拡大により実施は見合わせた。

4 令和5年度以降に実施する事業（案）

(1) 基本的な考え方

- ①新型コロナウイルス感染症や不安定な国際情勢等を考慮して児童・生徒及び保護者が安心して参加できる体制を確保する。
- ②児童・生徒に一人一台配付した学習者用タブレット端末を有効に活用して新たな展開を図る。
- ③国外に児童・生徒を派遣する際は、国内外の物価動向も注視して適正な派遣規模及び費用個人負担の在り方を考慮した事業展開を図る。

(2) 国内における主な事業 ※資料1の下段を参照

- ①テンプル大学国内留学プログラム助成事業

夏季休業中にテンプル大学が主催する3日間の英語学習プログラムに参加する小・中学生の参加費を半額助成する。

②英語体験出張教室

区立小学校の4年生の英語学習の一環としてALTや専門スタッフが全校に巡回訪問して英語で道案内や買い物体験、プログラミング学習等を行う。

③オンライン海外交流プログラム

自宅に居ながらにしてオンラインでオーストラリアの家庭に3日間のホームビジット体験をする。

④教育総合センターにおける国際理解教育事業

乳幼児とその保護者及び区内小・中学生に向けて外部講師を招いて英語の歌やゲーム、運動、オンライン海外探訪等を行う講座を年3回開催する。

⑤姉妹都市からの中学生の受入れ

バンバリー市・ウィニペグ市から中学生を受け入れ、ホームステイや区立学校への招待、区民交流、国内観光等を実施する。

⑥学校独自の国際交流活動

学校の創意工夫により姉妹都市のバンバリー市やポートランド市の学校、海外日本人学校等とオンラインを活用するなどして出前授業や学校紹介、ボランティア活動等に取り組む。

(3) 国外における事業（検討中）

①再開に向けた取組み

区内小・中学生を姉妹都市（バンバリー市・ウィニペグ市・ウィーン市）へ派遣してホームステイや現地の学校訪問等を実施する。

※新型コロナウイルス感染症や国際情勢等の状況により休止する可能性もある。

②その他

教育研究を目的とした派遣（フィンランド（ビヒティ市）、アメリカ（ポートランド市）、台湾（高雄市））については、新型コロナウイルス感染症や不安定な国際情勢、渡航費の高騰等の影響を鑑みて引き続き実施の有無を検討する。

4 スケジュール（予定）

令和4年11月 校長会へ国外における事業の実施方針等を周知

資料1

小・中学生の国際交流事業の全体概要（案）

令和4年9月
教育指導課/教育研究・研修課

国際化の一層の進展に伴い、児童・生徒に国際的視野に立って主体的に行動するための資質や能力を育む

令和元年度以前に実施していた事業【beforeコロナ】

国内における事業

国外における事業

タッチ・ザ・ワールド	姉妹都市からの中学生の受入れ	学校独自の国際交流活動	姉妹都市への小・中学生の派遣 バンバリー市・ウィニペグ市・ウィーン市	教育研究を目的とした小・中学生、教員の派遣 フィンランド
------------	----------------	-------------	---------------------------------------	---------------------------------

令和2・3・4年度に実施した事業【withコロナ】

国内における事業

テンプル大学国内留学プログラム助成事業	英語体験出張教室	オンライン海外交流プログラム	教育総合センターにおける国際理解教育事業 令和4年10月～	学校独自の国際交流活動
---------------------	----------	----------------	----------------------------------	-------------

令和5年度以降に実施する国際交流活動（案）【afterコロナ】

国内における事業

国外における事業

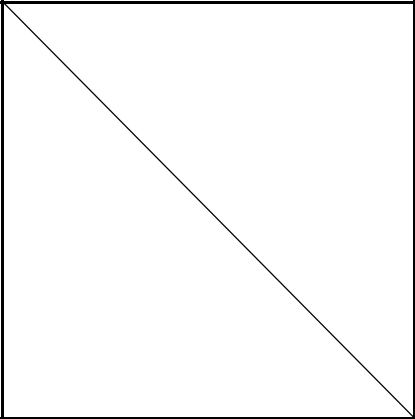
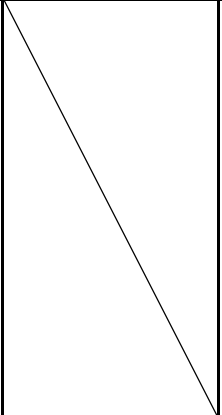
テンプル大学国内留学プログラム助成事業	英語体験出張教室	オンライン海外交流プログラム	姉妹都市への小・中学生の派遣 バンバリー市・ウィニペグ市・ウィーン市 再開に向けて準備する	教育研究を目的とした小・中学生、教員の派遣 フィンランド・ポートランド市・台湾 実施の有無を検討する
教育総合センターにおける国際理解教育事業	姉妹都市からの中学生の受入れ	学校独自の国際交流活動		

新型コロナウイルス感染症や国際情勢等の状況により休止する可能性もある。

「小中学生の国際交流事業について」の補足説明

令和2・3・4年度に実施した国内における主な事業

事業名 (開始年度)	事業の目的・ 参加人数等	令和4年度 予算額(千円)	実施内容	成果と課題
テンプル大学国内留学プログラム助成事業 (令和2年度～)	英会話プログラムへの参加費の補助 ・世田谷区から参加した児童・生徒(290人)の内90人分	1,950	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中にテンプル大学が主催する英語学習プログラムに参加する小・中学生の参加費(約2万円)の半額を助成する。 ・英語のスキル毎に1クラス25名程度に分け、1人のメインティチャーがオールイングリッシュでプログラムを進行し、3,4名のアシスタントティチャーが個別にサポートする。 ・プログラムの内容は、小学生は歌やクイズ等のアクティビティを、中学生はディベート等を英語で行う。 ・小学生は2日間×2組(①8月1日(月)～2日(火)、②8月4日(木)～5日(金))実施。 ・中学生は3日間×1組(8月15日(月)～8月17日(水))実施。 	人気があるプログラムのため、毎年、募集人数を上回る応募がある。テンプル大学に世田谷区から参加する児童・生徒の優先受入れ枠の増員を依頼し、定員を増やしている。
英語体験出張教室 (令和2年度～)	英語によるコミュニケーション能力の育成 ・全小学校の4年生	17,275	<ul style="list-style-type: none"> ・全小学校で年1回実施。 ・ALTやALTを派遣している企業の専門スタッフ6、7名程度が巡回訪問して、英語で道案内や買い物体験、プログラミング学習等を行う。 	英語に苦手意識を持っていた児童でも楽しみながら活動することを通して英語学習や国際理解教育への意欲向上につながっている。

<p>オンライン海外 交流プログラム (令和3年度～)</p>	<p>バーチャル・ホーム ステイ体験の提供 ・小学5・6年生30 人、中学生40人</p>	<p>2,904</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏季休業中に自宅に居ながらにしてオンラインで英会話レッスンやオーストラリアにホームビジットをするプログラム。 ・1家庭に対して4～5人の児童・生徒がつながり、ご自宅の様子をバーチャル訪問したり、現地コーディネーターを介して文化を紹介し合ったりして英語や海外の文化、生活様式等を学ぶ。 ・小学生は8月18日(木)、20日(土)、21日(日)に実施。 ・中学生は8月23日(火)、27日(土)、28日(日)に実施。 	<p>5</p> <p>参加者から「楽しくて、参加して本当に良かった」「英語が通じて自信になった」「もっと自分の言葉で話せるようになりたい」等の高評価を得ている。</p>
<p>教育総合センターにおける国際 理解教育事業 (令和4年度～)</p>	<p>①乳幼児の英語体験 の促進 ・1講座約20人× 3回 ②区内小・中学生の 多様な英語学習活動 の促進 ・1講座約20人× 3回</p>	<p>417</p>	<p>①就学前の乳幼児が親子で英語の歌やゲーム等を行う講座を開設する。外部講師を招いて10月から年3回、土曜日に各回1時間程度行う予定。</p> <p>②「English Salon」と題して区内小中学生が英語を使った遊びや活動、運動等を行う講座を開設する。大学や事業所等と連携して11月より年3回、土曜日に各回1時間程度で行う予定。</p>	
<p>学校独自の 国際交流活動</p>	<p>国際理解教育の推進</p>		<p>英語や総合的な学習の時間、特別活動等の学習に位置付けて学校や独自につながりのある大使館や留学生、海外日本人学校等とオンラインを活用するなどして出前授業や学校紹介等に取り組んでいる。</p> <p>(実践例)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上北沢小学校ではバンバリー市の学校の児童と互いにオンラインで学校紹介等を行う。 ・千歳中学校では留学生をゲストティチャーとして招いて出前授業を行う。 	<p>児童・生徒の実態に応じて教員が主体性を発揮して創意工夫を凝らした国際理解教育が展開されている。</p>